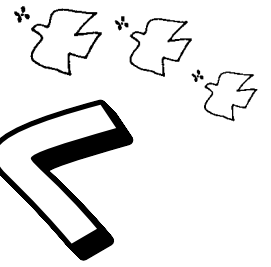


戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く

わたちのピーストレイン

〒141 0031 東京都品川区西五反田3 2 13 JR総連内 ☎ 03 3491 7191 JR 057 4596

えん罪許さない！公正な裁判を求めて女たちも奮起 えん罪JR浦和電車区事件を支援する会集会に参加

4月19日、「戦争を許さない女たちのJR連絡会」は東京・日比谷野外音楽堂で行われた「えん罪JR浦和電車区事件を支援する会主催 完全無罪と早期職場復帰を勝ち取る4・19総決起集会」に参加しました。

最終弁論が始まるこの日、朝早くから第57回公判を傍聴しようと3,617名が東京地裁前に並びました。「女たちの会」は約70名が傍聴券獲得行動とパレード、公判報告集会に参加しました。

パレード

「女たちの会」は、何百枚もの色紙に一人ひとりが想いを書いて繋げた横断幕を先頭に、エプロンやゼッケンなどを身に付け、各会の旗や風船を手に、「支援する会」、ヨサコイ隊の後に続き、「国家権力のえん罪を許さない！」「国民投票法案反対！」と声を上げ、芝公園から日比谷公園までの約2kmをパレードしました。

公判報告集会

冷たい風が吹く中、季節外れの寒さにも負けず、集会のオープニングではエイサーの迫力ある太鼓が、会場いっぱいになり響きました。集会は劇団文化座の高村さんと、美世志会7名の後輩である浦和電車区の北島さんの司会で始まりました。



集会は、「支援する会」の呼びかけ人の十勝花子さん(女優)、松崎都さん(神奈川9条連)、布野栄一さん(日大名誉教授)、小野道浩さん(労働評論家)、船田功さん(栃木県9条連)のほか弁護団らが参加。「支援する会」の飯沼事務局長は挨拶の中で「日本全国でも、こんなに集まったのはこれが初めてではないか」「裁判長から、傍聴券獲得に来る人数が多いと裁判の開廷が遅くなるので控えていただきたいと言われてしまったほど、結集力はすごい」と話がありました。

連帯の挨拶として、「山形明倫中マツト死事件」家族会の大竹さんと福原さんは「このようなえん罪事件をなくしましょう！国家権力によって弱者が痛めつけ



られることは許せない。共に頑張りましょう！」と訴えました。

また、鹿児島県の「えん罪志布志選挙法違反事件」を支えてきた武田さんからのメッセージが読み上げられました。弁護団の中村弁護士は、最終弁論で行った3点の特徴点や、検察が隠している事実について「7名による脅迫や暴力はなかった。組合脱退発言をしたY君に対して、説得したことが、強要罪にされたことについて真実を訴える弁論をした」と報告がありました。

集会の最後には7名から決意表明がされ、検察の隠している事実に対し全員が怒りを表し、残り2回の最終弁論も全力で闘っていく決意が述べられました。「会場は寒さを感じますが、心の中は温かい気持ちでいっぱいです」と述べた美世志会大潤さんの気持ちに共感した大集会でした。

4年半に及ぶ裁判を経て、今年7月には第一審判決が出されます。7名の完全無罪と早期職場復帰を勝ち取るまで、「女たちの会」も最後まで共に闘いましょう！



全国の女たちが えん罪浦電事件の 支援の輪を広げて

えん罪が許される国に未来はない！

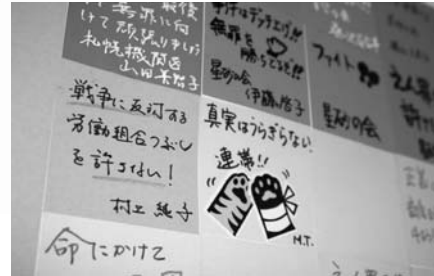
4月19日、早朝から傍聴券を獲得する人たちが埋め尽くされた東京地裁周辺の様子は本当に感動的でした。パレードや集会でも仲間の皆さんのパワーを感じ、寒さも吹き飛んでしまいました。えん罪が許される国に平和を望むことは出来ないと思います。子どもたちの未来のためにも、7名の仲間のみなさんの完全無罪を絶対にかちとらなければなりません。これからも「おりづるの会」は全国の仲間のみなさんと共に断固たたかいます！

おりづるの会 Y.K



4.19のパレードにさきがけ、4月7日皆で集まり、女性らしくエプロンにみんなの想いを書き込みました。19日当日、傍聴券獲得のために並んだ人・人・人。私達は前の方でしたが、後から後から続いていて、抽選の時間の9時までの間途切れることなく、みんなの想いを目の当たりにしました。パレードの時、雨を心配しましたが、参加者全員のパワーで一時は陽もさし、意気揚々と出発しました。でも集会会場については寒くて寒くて大変でした。中村弁護士の話の中、裁判長が「約束が違うじゃないか。数が多すぎる」と目で訴えていたという事が、非常に印象に残っています。それ位みんなの想いがすごいということです。「7人は無実です」この短い言葉に全部想いが込められています。

エンジェル F.O



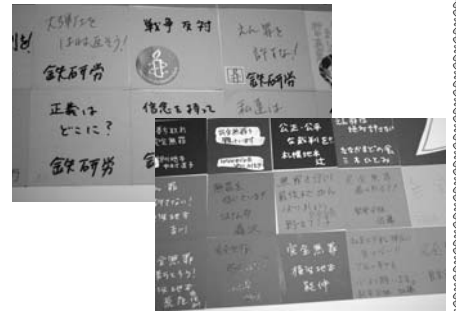
一堂に会する事はないので、資料と一緒に「折り紙」を同封し、メッセージのお願いをしてきました。不当逮捕時の襦、タペストリーの作成からと続く仲間の想いが込められて、行動には参加できないけど「心」は一つです。

星砂の会 H.F



「えん罪 JR浦和電車区事件」に対する怒りとそれを許さない一人ひとりの想いを5cm角の色紙に込め、全国の仲間とひとつに繋がった。鮮やかさのなかにも強い意志が込められて周りを圧倒するような大きな横断幕となって、わたしたち「ななかまどの会」も集会に参加することができた。

ななかまどの会 M.S



五千人以上の人と同じ想い、同じ目的を持ちパレードは進み、集会は大成功であったと確信しています。が、この私たちの想いがどれだけの人々に理解されたかはわかりません。そして、この裁判にどれだけの影響をもたらすのかも...。でもここからが私たちのふんばりどころです。集会での想いを一人ひとりが周りの人に教えてあげる、伝えてあげる、それは私たちがやらなきゃ！今からでも遅くないはずです。

聚楽労組 M.S



第57回公判の19日は、朝からとても寒い一日でした。

朝の傍聴券獲得の取り組みに始まり、午後からのパレード・公判報告集会とたくさんの仲間が参加した一日の行動でしたが、「青空の会」からは7名しか参加できませんでした。けれどJR貨物労組女性組合員・書記・家族のみなさんから寄せてもらった一言を「女たちの横断幕」(とてもステキにできたと思います)に託して、全国にいる女性達と一緒にパレードに参加できたことはとても嬉しいことでした。この全国の女性たちの想いを、完全無罪判決につなげましょう！

青空の会 M.T

「美世志会」は「えん罪JR浦和電車区事件」の判決を前に全国キャラバン行動を行います。
「女たちの会」作成の横断幕も「美世志会」とともに全国を放し、完全無罪を訴えます。

「山形明倫中マット死事件」はえん罪事件！

警察に自白強要され、息子たちは逮捕された

家族が語る事件の真実

“えん罪被害者”の真実の声を聞こうと2月23日、“「山形明倫中マット死事件」家族会の皆さんのお話を聞く集い”を開催しました。集いには同じくえん罪で闘っている「JR浦和電車区事件」被告7人でつくる美世志会も参加し、30名で行われました。

代表の大竹さんは「警察は間違ったことをしないとされていたが、それは間違いだった。警察は事件を作り、息子を犯人に仕立て上げ、長時間密室で脅して『やった』と自供させた」と訴えました。また、同家族会の福本さんは「息子は捜査員の恫喝に恐怖で震え、幼稚園の子どものように小さくなり、私はその夜、中学2年になる息子を抱いて寝た」と語りました。

警察の強圧的な取り調べによるえん罪事件は、このところマスコミでも取り上げられていますが、事件の真相が明らかになることはまれです。この「山形マット死事件」も、翌日マスコミは警察の発表のまま「いじめによる殺人事件」として無実の子どもたちが犯人であるかのように報道をしました。「世間の視線はものすごかった。嫌がらせの電話は夜中にもかかってきた。14年経った今もかかってくる」と福本さんは話します。自白を強要され、無実の罪を着せられた被害者たちを救うために、えん罪事件の真相を広く伝える連帯した闘いが必要です。



お話をきいて

山形のマット死事件は知っていましたが、もう解決した事件として捉えていました。

わが子が殺人事件に巻き込まれ、まして犯人として警察に捕まるという思いもかけない事ですが、最近のえん罪事件の多さにいつ我が身にも降りかかってくるかもしれないという恐怖を感じました。

青空の会 N.H



© 2007 HIRUTA

いじめによる殺人だった...私もこのマスコミ報道を鵜呑みにしていた一人です。ある日突然、ごく普通の家族に見舞われた悲劇。お母様方のお話を聞き、我が子を思う深い愛情と未だえん罪が晴れない現状に、胸が痛みました。

JR東労組 S.A

お母さんは何回も声を詰まらせ、息子が犯人にされた悔しさを話してくれました。狭い田舎町のこと、平穏な日常生活が一転して、「殺人犯とその家族」と言われて生きることのつらさは言葉では言えないものであったと思います。

JR浦和電車区事件の7人も、本人はもちろんですが、ご家族も、夫や息子が「犯人」に仕立てられることによって、理不尽な社会的制裁に耐えなければならなかったことを思い、あらためて怒りに身がふるえました。

えん罪で苦しむ人があっていいはずがありません。お母さんたちの涙をこれ以上見たくありません。闘うしかない、その思いを新たにしました。

JR総連 M.T



事件の真実が綴られるブックレット「えん罪マット死事件濡れた遺体の謎」花鳥賊康繁著 ¥700
北方出版(023)632 6987

* 「山形明倫中マット死事件」

1993年1月13日山形・新庄市立明倫中学校で男子生徒が体育館の用具室でマットの空洞に逆さまに入って死亡した事件。当時いじめによる殺人事件とされ、7名の生徒が逮捕された。02年無罪判決後、04年高裁で逆転有罪判決、05年最高裁で上告を棄却された。現在は再審請求に向けて準備中。

元日本軍「慰安婦」李容洙さん証言集会を聞いて2 25



2月25日横浜での証言集会、日本軍に頭を捕まれ暴行される様子を語る李容洙さん

2年前ソウル近郊のナムの家(元日本軍慰安婦のハルモニ=おばあさんが住んでいる共同住宅)を訪れた時、水曜デモの後にたまたま来ておられた李容洙(イ・ヨンス)ハルモニにお会いし、達者な日本語でご自分の体験を話していただきました。5~6年前に伺った頃は、慰安婦問題を取り

上げると右翼が押しかけ騒ぐ状態でした。しかし、2年前には「歴史から抹消する」「なかったことにする」ということが始まっていました。

私はこの時、「この問題を世間に知らせることがたたかいてもある」と思いました。このたび、ようやくそれを実現することができました。折も折、李容洙さんはアメリカ下院の公聴会で証言後の帰国途上で来日され、日本国内でもマスコミが取り上げるなど恰好の開催時期でした。

アメリカの動きに対応した安倍首相の「強制的証拠はない=河野談話の見直しを」という発言には「ヨンスハルモニの話をちゃんと聞け」と言いたいです。「15歳の頃、夜寝ていると一緒に遊んでいた友達が

窓から“おいで、おいで”と手招きするので外に出ると、軍人が待っていた。何かを突きつけられ押され、汽車に乗せられた。台湾の特攻隊基地の慰安所で軍人の相手をさせられ、言うことをきかないとひどい拷問を受けた」ということです。狭義だ、広義だと言い逃れをしていますが、連れて行かれた時も、慰安所の時もこれを「強制」と言わずして一体何というのでしょうか。

今回、私は李容洙さんの話をいままでとはちょっと別の視点でも考えました。ハルモニの初恋の相手はやさしい日本の特攻隊員だったということですが、戦時中であっても、軍人の中には慰安婦の朝鮮人の女の子を慈しんだ人たちがいたということ。元慰安婦の人たちの中には日本の軍人と結婚の約束をした人たちが結構いるそうです。

今までは慰安婦と相対するのは強暴な獣のような男たちというイメージしかなかったのですが、戦場に「行かされた男たち」も気の毒なあと改めて思いました。

直接戦う者たちは結局弱者同士なのに。この世界から戦争がなくなることはないのでしょうか。



M.K

© 2007 HIRUTA

4月6~7日、『むらさき花だいこん』の花見会が開かれ、4月7日女たちの会からも4名が参加しました。

主催者は民間で働くパートの女性たち。昨年の「9条フェスタ」で「女たちの会」の企画したむらさき花だいこんの朗読劇を見て、その話に感動し、仲間たちで花の種を植えて育てようと、「むらさき花だいこんの会」を発足させたそうです。

パート勤務のシフトもそれぞれ違うため、花見会は前

春風によって平和の花ひらく むらさき花だいこんの花見会に行ってきました



© 2007 HIRUTA



・後泊を含め延べ3日間開催されました。7日は天気も良く、総勢40名

ほどが集い、花の咲く広場に見事な手作りの「日本国憲法」第9条の大看板を掲げ、バーベキューを食べながらの楽しいひとときを過ごしました。

大看板の労作もさることながら、紛れもなく『むらさき花だいこん』の朗読劇を契機に、平和を願う新しい人々の輪が広がっていることに感激しました。

S.T

“9条フェスタ”今年もやるよ!

今年で3回目となる“9条フェスタ”が9月に開催されます。「戦争を許さない女たちのJR連絡会」も出展します。お楽しみに!

- ・とき : 2007年9月29日(土) 10:30~18:00
- ・ところ : きゅりあん(品川区総合区民会館)
- ・チケット: 1日(フリーパス)500円(中学生以下100円)

詳しくは9条連のHPをご覧ください。http://www.9joren.net/



大久野島で平和を誓う



4月22～23日にJR貨物労組関西地本主催の平和研修が開催されました。私の実家の近くの広島県竹原市の大久野島へ、本部・関西・東海・九州地本の組合員・家族・書記を含め38名の参加で行って来ました。

小学生の時に一度遠足で行って以来2度目の見学でしたが、小学生の時は立入禁止で見学できなかったように思います。

今回は、日本が60年いやもっと前から製造を禁止されていた毒ガスを作り、その島を日本の地図から消し、すぐ側を通る列車の窓に覆いを被せて、国内外から気づかれぬようにしていたと聞きびっくりしました。毒ガスの兵器としての効果がどれだけあったのか分かりませんが、島で製造をしていた人々は戦争の犠牲となって戦後病気に悩まされ、今も苦しんでいる方々もいるそうです。

今、日本政府は憲法9条を改悪しようとしています。日本が戦争をする国へと向かって法整備がされる中、二度と戦争を起こさないために、またその動きを止めるためにもいろいろの人達と協力して、来た道に戻らないように訴えていきたいと思っています。

青空の会・関西 K.R

辺野古の海を守る闘い

5連協沖縄平和研修に参加して

5月19日から2泊3日、JR総連5連協の沖縄平和研修に参加し、名護市辺野古を訪ねました。

辺野古は、米海兵隊普天間飛行場の移設計画の対象地キャンプシュワブ沿岸部に位置し、地元ではヘリ基地反対の闘いが10年近く続いています。

私たちが行った5月19日は、前日から海域の珊瑚の生息状態を事前調査する機器設置作業が開始され、反対派の抗議に備えて投入された海上自衛隊の掃海母艦「ぶんご」の潜水員が調査に参加するなか、反対派が船やカヌーを出し阻止行動を展開するという緊迫状態にありました。

報告によれば、ダイバーが潜水し機器設置を阻止する行為をしているが、あくまでも非暴力を貫いていること、カヌー隊は20代から72歳までで、泳げない人もいるが、ライフジャケットを着て辺野古の海を守るため命がけで闘っているとのことでした。また「沖縄から5000名の米兵をイラクに派兵し人殺しをしている」という怒りも表明され、戦場の悲惨さを肌で知る沖縄の人々の思いや厳しい闘いを知り、頭が下がる思いでした。

9年前、「いのち輝く」編集部はヘリ基地問題に揺れる辺野古を訪ね、「命を守る会」の金城祐治さんの

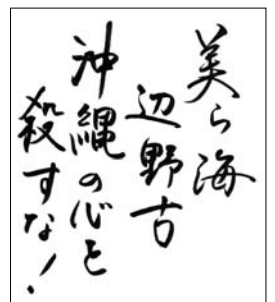
お話を伺いました。

その金城さんが、今回私たちが辺野古を訪ねた5月19日の朝、72歳の生涯を閉じられたことを翌日知りました。辺野古の反対運動の象徴的存在であった金城さん。闘いに次ぐ闘いが死期を早めたと聞きました。志半ばでどんなに無念だったかと胸が痛み、残念でなりません。

「米国追従の政策によって、沖縄が再び日本の防波堤たる運命を背負うのはもってのほか」「戦争を体験されたお年寄りが子や孫の命を守るため闘っているのだから、私も生きている限り闘う」と切々と訴えていた金城さんの顔が甦ります。

かつて本土決戦の捨て石とされ地上戦を唯一経験し苦しんだ沖縄。「今も脅えて暮らす人々のケアは国の最も基本の仕事なのに、過ちを省みず、核大国アメリカに追従する日本は、おかしな国だと思います」これは一緒に参加したKさんの感想です。青い空、美しい海、沖縄の自然と人々の心をこれ以上傷つけないで、と願わずにいられません。そのために私は、これからも沖縄の闘いと連帯していきたいと思っています。 S.T

お話を伺いました。その金城さんが、今回私たちが辺野古を訪ねた5月19日の朝、72歳の生涯を閉じられたことを翌日知りました。辺野古の反対運動の象徴的存在であった金城さん。闘いに次ぐ闘いが死期を早めたと聞きました。志半ばでどんなに無念だったかと胸が痛み、残念でなりません。「米国追従の政策によって、沖縄が再び日本の防波堤たる運命を背負うのはもってのほか」「戦争を体験されたお年寄りが子や孫の命を守るため闘っているのだから、私も生きている限り闘う」と切々と訴えていた金城さんの顔が甦ります。かつて本土決戦の捨て石とされ地上戦を唯一経験し苦しんだ沖縄。「今も脅えて暮らす人々のケアは国の最も基本の仕事なのに、過ちを省みず、核大国アメリカに追従する日本は、おかしな国だと思います」これは一緒に参加したKさんの感想です。青い空、美しい海、沖縄の自然と人々の心をこれ以上傷つけないで、と願わずにいられません。そのために私は、これからも沖縄の闘いと連帯していきたいと思っています。 S.T



BOOK

紹介

いのちの叫び

日野原重明、森繁久弥、永六輔、海勢頭豊、加藤登紀子、佐々木愛など、多彩な識者によってつづられた「いのちの叫び」。著者たちが見聞きし経験した生命の叫びは、心に重くズシンと響くものであり、今の世を考えさせる言葉であり、また希望を与えてくれる言葉です。一つ一つが短いエッセイ形式なので、自分の知っている俳優や識者から読んでみるのはいかがでしょうか？(以下、一部抜粋) T.O


六十年以上経った今も、過去の歴史はきちんと見つめたい。そして次の世代に伝えたい。二度と、日本が戦争への道を歩かないよう、切望しながら。吉永小百合
小国だった並貧の昔を「あれで十分、生き甲斐もある、結構楽しい」というのが、私の、民主主義をもじった貧主主義なんです。便利文明追求の大国では人間力が衰え、心も滅びる。小沢昭一
子どもが十歳になると、こんなに人間と人間、国と国との関係が分かるように成長していることに、私は感動を感じるのです。日野原重明



「いのちの叫び」
藤原書店編集部編
藤原書店 2000円+税

憲法9条は変えさせない!

5月3日、東京日比谷公会堂で“憲法施行60周年、生かそう憲法、守ろう9条、2007年5・3憲法集会”が開かれ、私たちの会から8名が参加しました。集会では植野妙美子さん(中央大学教授)と浅井基文さん(広島平和研究所所長)が講演を行い、



米国と軍事行動しようとする日本政府の改憲目的を厳しく指摘。浅井さんは「主張・立場を乗り越えて9条改悪を許さないことで一致するしかない」と諸団体、党派の枠を越えた連帯を呼びかけました。

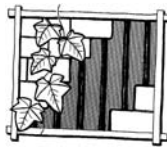
戦争ができる基盤作りを着々と進める安倍政権は5月14日、改憲手続きを定める「国民投票法」を成立させ、今国会中に自衛隊のイラク派遣を2年延長させる「イラク特措法」改正案も成立させる見通しです。安倍政権の暴走をSTOPできるのは私たち国民です。さらなる闘いを続けていきましょう。 M.K



第6期市民意見広告運動に私たちの会も賛同しました。5月3日、朝日・中日・東京新聞に掲載。

「えん罪布川事件」

証拠を隠して有罪判決はおかしい
新たな証拠、再審開始を求めて



© 2007 HIRUTA

強盗殺人犯として逮捕・起訴され、自白を強要された「えん罪布川事件(1967年)」で無期懲役を受けた桜井昌司さんと杉山卓男さんが5月17日、東京・文京シビックホールにおいて「布川事件の再審開始をめざす東京集会」を開催しました。

集会では、ジャーナリストの里見繁さんが講演し、「なぜテレビはえん罪事件を取り上げないのか。えん罪を取り巻く人々の関心を高めよう」と呼びかけました。



エンジェル・大宮の女性たちが署名(1,075筆)に協力しました。

その後挨拶した杉山さん、桜井さんは「最後までやり抜く」「再審無罪をめざす私たちに絶望という言葉はない。希望をもって他のえん罪事件で闘う人たちとともに力を合わせていきたい」と話しました。

今後、再審開始にむけ署名活動や集会など、さらに広範囲な闘いが続けれます。6月9日には、国連の拷問等禁止条約第1回日本政府報告の審査を傍聴した杉山さんの報告会も開催されます。 M.K

- 桜井さんがライブ -



3月25日、布川事件の桜井昌司さんのライブ「心を語り、心を唄う」があり、行って来ました。拘置所の壁の中で綴った自分の詩に曲を付け、思いを語りながらのコンサート。ウイットのきいたお話に思わず笑わせられ、その桜井さんの歌を目を閉じて聴きながら泣きました。えん罪で29年もの間囚われの身となり、いまは自分の意志で働いて、えん罪をはらす闘いの日々。その人生を受けとめ、「幸せ」と言って前向きに生きている、すごい人だと思いました。

布川事件では犯人とされた二人の逮捕から38年目の2005年に初めて再審開始が決定。桜井さんたちは再審無罪に向けねばり強く闘っています。無罪の証拠を隠し続ける検察側に対し証拠開示を求める署名運動には、私たちの会も取り組んでいます。 S.T



弁護団が綴ったブックレット「崩れた自白 無罪へ」
03(5)3790307
現代人文社

* 布川事件(ふかわじけん)

1967年(昭和42年)に茨城県で発生した強盗殺人事件。犯人として近所の青年2名が逮捕・起訴された。警察の取調べで『自白』を強要され、その『自白』を根拠に裁判で無期懲役の判決を受け、29年間服役。2005年、再審開始決定。現在再審手続き中で、検察側が隠していた『自白』録音テープが開示され、13か所の改ざんを証明する証拠が弁護側から提出された。早ければ今秋にも東京高裁の再審開始決定が出されるものと見込まれている。

- 私たちは今野東さんを応援します -

守らなければならないもの
平和・人権・民主主義

今野東
このあずま

子ごをたのみに
明るい未来を
手渡したい



今野東プロフィール

1947年12月宮城県生まれ 明治学院大学社会学部卒業
フリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオで活躍
東方落語主宰
難民支援基金理事長
2000年衆議院議員(宮城1区)初当選
2003年再選 民主党政調副会長
次の内閣人権担当副大臣等を経験
趣味: ガーデニング、料理(ビーフシチューが得意)
家族: 妻、長女、長男の4人暮らし